

### 令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	世代の利益と安定を目的とした森の人達による第1回箕輪町西部地区環境シンポジウム、災害に強い森林復元のための直根ブロック苗づくり講習会
事業主体 (連絡先)	西部山林環境改善保全会 上伊那郡箕輪町大字中箕輪 5411-3 広報・渉外担当 中澤千夏志
事業区分	5)環境保全・景観形成に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	689,838 円 (うち支援金: 422,000 円)

#### 事業内容

箕輪町西部地区の森林に関わる人々を対象として目線合わせが目的①小冊子(24 ページ)に 24 名の投稿者、8 社からのメッセージを掲載し、1200 部発行、箕輪町 700 常会で回覧後、財産区議会議員、私有林所有者へ配布した。

②9.27 小冊子受け渡し会、保育ブロック作成講習会では約 70 名が参加し信大元教授の講義と保育ブロックの作成体験を行った。③11.15 池の水を抜くオヤジの遊び大作戦を実施し 25 名の有志が農業用堤の底から保育ブロック用の泥を回収した。④11.29 種まき体験交流会は、25 名が参加し伊那市の実践者の指導の下で育苗について学び、200 個の保育ブロックが発芽を待っている。

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

①返信ハガキを通じて森林所有者の特定が図られると期待したが、返信は5枚のみで目算はずれだったが、下古田区内で町に先行して次年度私有林所有者意識アンケートを発出する準備が整った。②町内区長との交流の中で、伐期を迎えた区有林へ対応が共通課題である事が浮き彫りになった。③小冊子への投稿依頼を通じて、町内外の林業士、林業関係企業との繋がりを作ることができた事は、課題に対する提案をし合う関係構築に繋がった。

#### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

①コロナ禍への対応として、講演会を紙面に変えて実施した事は情報共有の手法として評判が良かった。令和3年度に計画する第2回西部地区環境シンポジウム企画にも継続していく。

②会としては、下古田区で私有林所有者を巻き込んだ意識アンケート実施、里山利用推進協議会の立ち上げを支援していく。

③県の「気候非常事態宣言」発出、「気候危機突破方針」を受け森林のCO2吸収固定機能の回復にむけて、里山の樹齢更新事業、緩衝帯設置事業、炭化事業、講演会事業を具体化していく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【環境シンポの様子】

#### 【目標・ねらい】

- ①森林所有者の特定
- ②里山利用推進協議会の立ち上げ
- ③林業士との連携
- ④林業関係企業との連携

#### ※自己評価【 B 】

#### 【理由】

1 年で森林所有者を特定して協議会を立ち上げる事は目標が高すぎた。箕輪町西部地区の多様な会と、森林関係者との繋がりが持てた事で展望が持てた。